

「何のために勉強するのか、」について中学時代は、ただ高校受験に合格するのが大きな目的であったように思う。当時は、一年生から千進研テストと北振テストの二大実力テストがあり、そのテスト結果が出ると、担任と個人面接、休み前の時期に、担任と保護者の二人面接に使用されていたと記憶する。

そのような中学時代、実力テストや定期テスト前では、教科書と参考書を見てのテスト対策ノート（要点まとめノート作り）づくりを柱に学習していたように思う。

しかし、今から思えば授業ノートにそれらの対策用の要点などを追加するような方法で、家庭学習を積み重ねるほうが効率的に良かったかもしれない。今であれば、自由に追加可能なファイルで学習内容を追加する方法もある。

勉強の方法論について、インターネットを検索すれば「私はこうして取り組んだ、こうして身につけた」などのハウ トゥ を紹介する情報が大量に検索できる。

自分も時々、インターネットからこれらの情報を調べてみるが、取り入れた勉強の方法としては、

- 教科書を何回も繰り返し読む。ただし、はじめは、大まかに、徐々に精読する。
- 覚えるべき内容については、表にまとめる、図式化するなどの工夫が必要。
- すぐできた問題には◎、イージーミスには△、できなかった問題には×の記号をつけ振り返りの能率化をはかる。繰り返し、繰り返しがここでも大切。
- 学習時間も長い時間の取り組みの確保はもちろんであるが、隙間時間で何度も見返す、読み返すの繰り返しを大切にす。

○語学については、英語の先生に勉強の方法を聞くことをすすめます。

○教科書の生の英語の音を毎日繰り返し聞くこと。例文を暗記して、書けるようにする。

そして、逆にその日本語の例文から英作文ができるように繰り返し訓練する。

その英文の発声練習もできるだけ生の英語の音で聞く。（ゆっくりから早めも大切）

単語もできるだけ繰り返し、沢山覚える（システムチックな単語帳が沢山考えられている）

また、外人さんとの英会話など機会を作る（スカイプでの英会話などの利用もある）

最後に・・・

脳科学の進歩から、すぐ入った情報は、「すぐ忘れる脳領域」に入り、この情報を「繰り返し思い出すことで」長く覚えていられる脳領域に移行するとのこと。

このことから、文章中で何回も出てきた「繰り返し、繰り返し」の積み重ねが大切であり、忘れない学習方法と言えそうである。

実際、授業で何回もクラスを違えて教えていくと、いつまでも忘れないという体験をしている。人に教えられるくらいに勉強すれば、かなり理解は進むことも付け加えておきます。